

本と出会い、本が人をつなぎ、人がまちをつくる、出会いのたねが芽吹く「つながりめぐるイーハトーブ図書館」

宮沢賢治が愛した花巻。イーハトーブの理想に一番近いこの地には、ゆたかな自然があり、そこで育まれてきた歴史・文化がある。そしてそこには人々の営みがあり、ゆたかな自然や文化の中で醸成されてきたコミュニティの絆がある。さらにこのゆたかな地を求めて訪れる多くの来訪者により、外部との交わり、つながりが生まれている。



図 12-2) ゆたかな地が育む多様な文化がある花巻

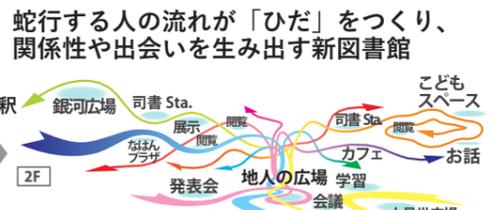


図 12-3) 蛇行する人の流れが「ひだ」をつくり、関係性や出会いを生み出す新図書館

このゆたかな地・花巻を形づくる背景を再解釈し、空間づくりに引用することで、本と出会い、本が人をつなぎ、人がまちをつくる、花巻のこれからのひとつづくり・まちづくりの拠点となる新しい場所「新図書館」を創ることができるのではないかと考えた。

西は奥羽山脈、東は早池峰山のある北上高地に囲まれた北上平野。蛇行する北上川の緩やかな流れが創る花巻の豊かな地は、美しい田園風景を育て、宮沢賢治をはじめとする作家による多彩な文学を生み出してきた。そして、そのゆたかな風景のもとで営まれる生活の中で、郷土の文化・伝統を育んできた。

駅、広場、なはんプラザに囲まれた新図書館。蛇行し四方から集まる人の流れが、人や情報のたまりの場となる「ひだ」を創り、関係性や出会いを生む。ここを訪れる市民や観光客など多様な人々の想いを受け止め、重ね合わせ育まれていく広く開かれた新図書館は、市民に寄り添い、対話し、皆で生活を良くするための新たな時代の羅須地人協会を育み、異なる営みが響き合い、市民が豊かで楽しい生活を送るための文化・芸術が育まれる場となる。

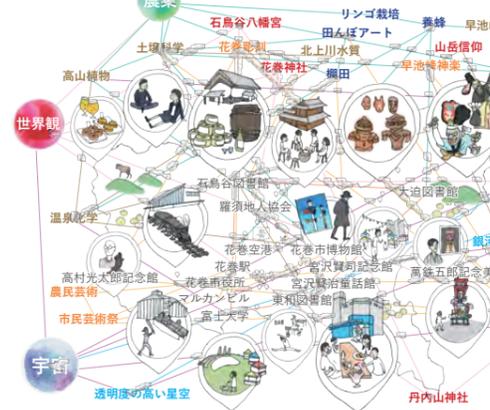


図 12-1) 花巻の人と風土が育んできた豊かな文化とコミュニティの例

西は奥羽山脈、東は早池峰山のある北上高地に囲まれた北上平野。蛇行する北上川の緩やかな流れが創る花巻の豊かな地は、美しい田園風景を育て、宮沢賢治をはじめとする作家による多彩な文学を生み出してきた。そして、そのゆたかな風景のもとで営まれる生活の中で、郷土の文化・伝統を育んできた。

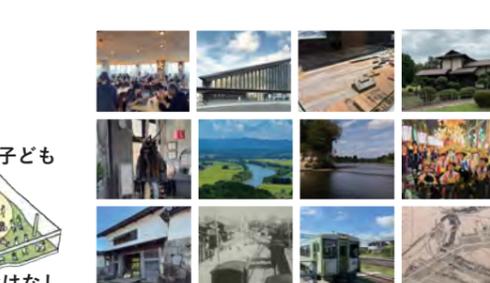


図 12-4) 花巻の豊かな郷土の風景・文化

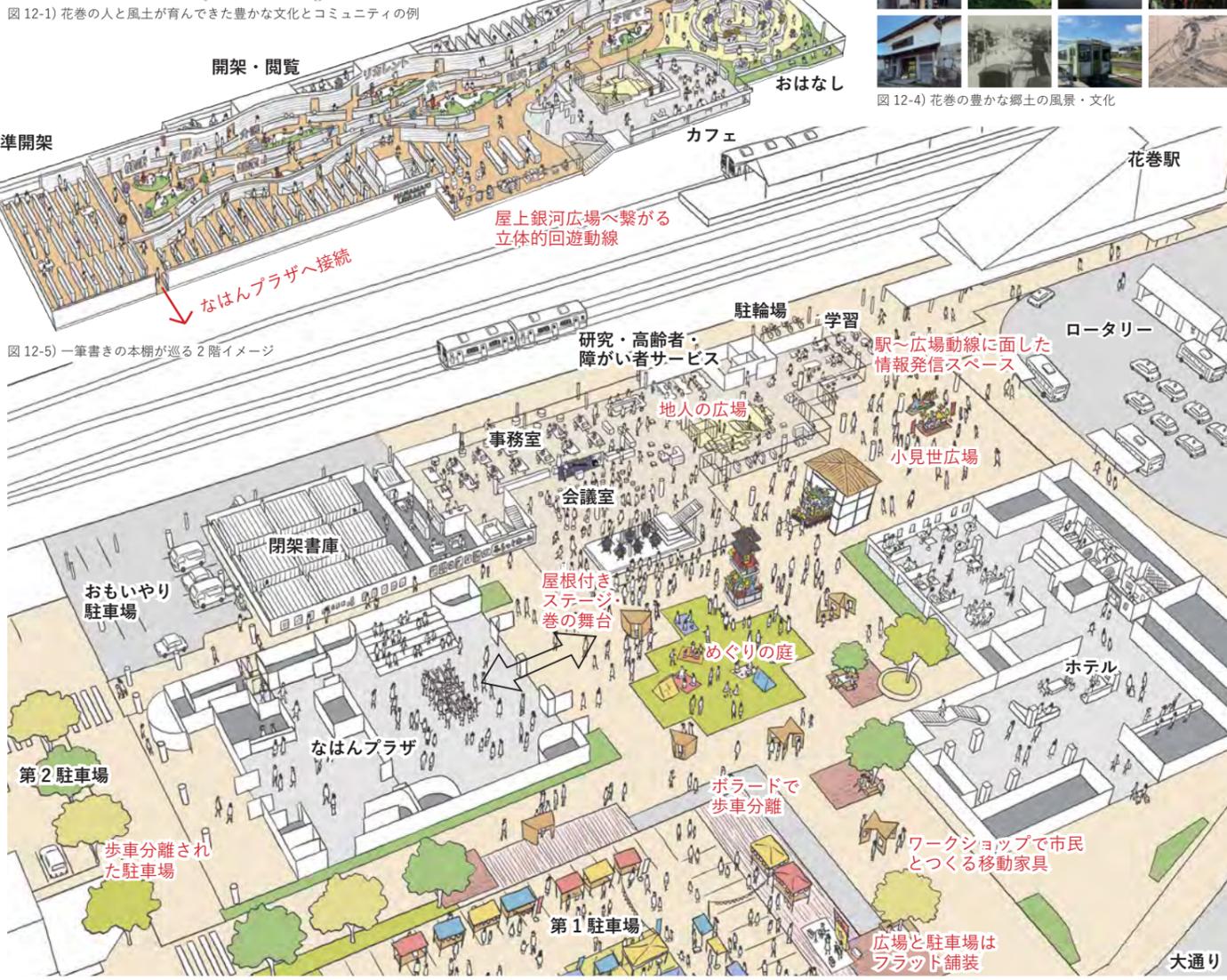


図 12-6) 周辺と繋がり、関係を作りながら市民みんなで育む新図書館の1階イメージ



図 12-7) 周辺施設と一体となり、ひとつづくり・まちづくりの拠点となる新図書館の外観イメージ

みんなの拠り所となり、ひとりひとりに寄り添い、花巻のひと・まちとともに未来へ育ちゆく新図書館を実現するための4つのポイント

- 1 まわりと交わり、全てをつなげる**
一体化
P2
P1
大通り
- 2 関わりをきっかけにつなぐ**
山並みを望む
賢治の鉄道を望む
賢治の陶板を望む
なはんプラザと接続する
- 3 みんなの声を受け止められる**
用途を限定した独立した室
一体化できたり分割できる
打合せ
学習
会議
多目的ギャラリー
- 4 本と偶然めぐり会うワンフロア**
一筆書きの本棚配置
動線
書架
特設書架+活動

ア 図書館としての性能

◆郷土の歴史と独自性を大切にし、豊かな市民文化を創造する図書館

「花巻スパイラル」=ゆたかな花巻の風土を再解釈し引用した空間

- 本との偶然の出会いを生む本棚配置。
- 目的の本への到達性を確保しつつ他の分類の本への寄り道を誘発する本棚レイアウト。
- 10 分類の各所に、横断テーマ陳列も可能な特設市民本棚を計画。
- 閲覧テーブルに分散されたテーマ別の司書おすすめ選書コーナーを配置。



図 12-12) 本との偶然のめぐり合いを生む一筆書きの本棚配置の考え方

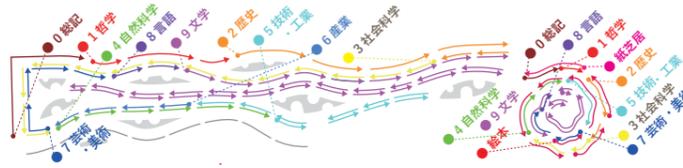


図 12-13) 本との偶然の出会いを生む一筆書きの本棚配置の具体例

周辺の施設を巻き込みつなぐ

- 駅前全体を一体利用可能な外構計画、
- なはんプラザとの一体利用、
- 周囲3方から広場への視線、
- 引込+回遊動線、
- 機能のネットワーク化により、周辺との有機的連携を実現。

「地人の広場」=寄贈図書で「本」と「ひと」と「まち」をつなぐ仕掛の場

- 寄贈図書を核とした「みんなの本棚」を、時間外も利用できるセキュリティエリア外のカフェや「知人の広場」に計画。

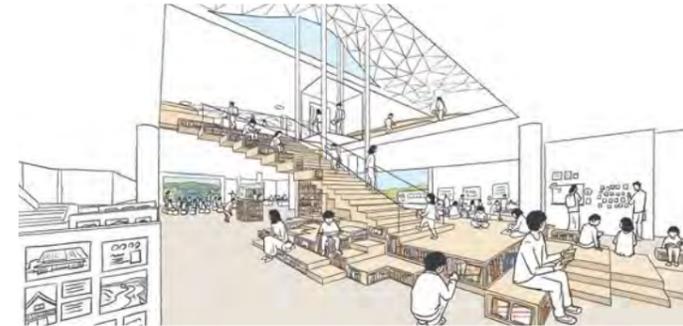


図 12-15) 2階閲覧室へと本棚が連続する地人の広場(本棚舞台)のイメージ

- 商店街等に設置した「みんなの本棚」=サテライト棚と連携し、街じゅうに広がるブックスポット・ネットワークを構築。

花巻線や駅前広場や大通りからめぐりの庭のイベントや

1階の市民活動が望める情報発信拠点

- まちづくり作戦会議場アクセスしやすいを1階に配置。
- 受発信拠点として、まちの人の活動をここに集め、来館者が言葉を書いていく仕掛を用意。
- 駅前広場~新図書館~なはんプラザの結節点に、ステージ「巻の舞台」と透明感のある会議室を配置。

図 12-17) 活動が外からも見える情報発信拠点



図 12-16) 街じゅうに広がるブックスポット・ネットワークイメージ

◆すべての市民が親しみやすく使いやすい図書館

多様な人々が利用しやすいワンフロア開架スペース



図 12-18) 北上川・銀河状 本棚配置は思いがけないヒトと本との出会いを育む

・誰にとっても使いやすいワンフロア・低い書棚を中心に配置することで、視線が通り、人や本との偶然的な出会いを演出

子ども連れも来館しやすい声の出せる場や、集中できる静かな場をゾーニングすることで、気兼ねなく長居できる図書館

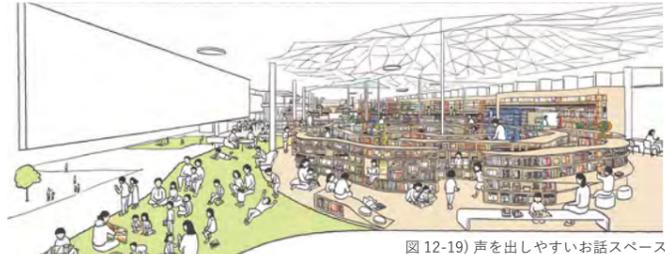


図 12-19) 声を出しやすいお話しスペース

・静かに読書に集中できる閲覧コーナーと声を出しやすいエリアをゾーニングすることで居心地の良い場を創ります。

アクセスのしやすい一体計画

・駅、なはんプラザ、駐車場をつなぐ
・なはんプラザとの一体化し、市民活動を促します。
・新図書館と一体的な立体回遊動線をつくることで、図書館となはんプラザの施設稼働率を高め、市民活動の促進を図ります。

図書館へのアクセスバリアをなくす

・ピロティ下に思いやり駐車場をまとめて確保(5台)
・なはんプラザ各階接続



図 12-20) 線路側の落ち着いた閲覧コーナー

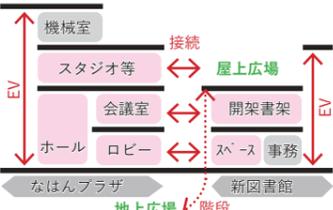


図 12-21) 一体利用時の断面構成

◆暮らしや仕事、地域の課題解決に役立つ知の情報拠点としての図書館

地域課題解決の場リングラボ

専門家や共有意識をもつ人々との交流を通じた相談打合せ(事務・研究)、意見交流の発表の場(会議・ギャラリー)が、交流が促進されるよう、ヒト通りの多い場(地人の広場)を取り囲むようおおらかに配置します。



図 12-23) 分散型司書ステーションのイメージ

時間外でも立ち寄れる場所

図書館営業時間外でも利用可能なエリアを駅～「めぐりの庭」側に集約配置し、常に人の存在を感じられ、立ち寄りたくなる駅前施設を目指します。



図 12-22) 1階リングラボでの利用イメージ

分散型司書ステーション

案内の即応に加え、イベントや観光繁忙期には全館観光案内所などの特別運用にも柔軟に対応し、市民サービスの向上に寄与。

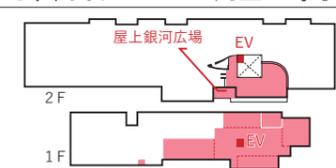


図 12-24) 時間外利用ができる範囲

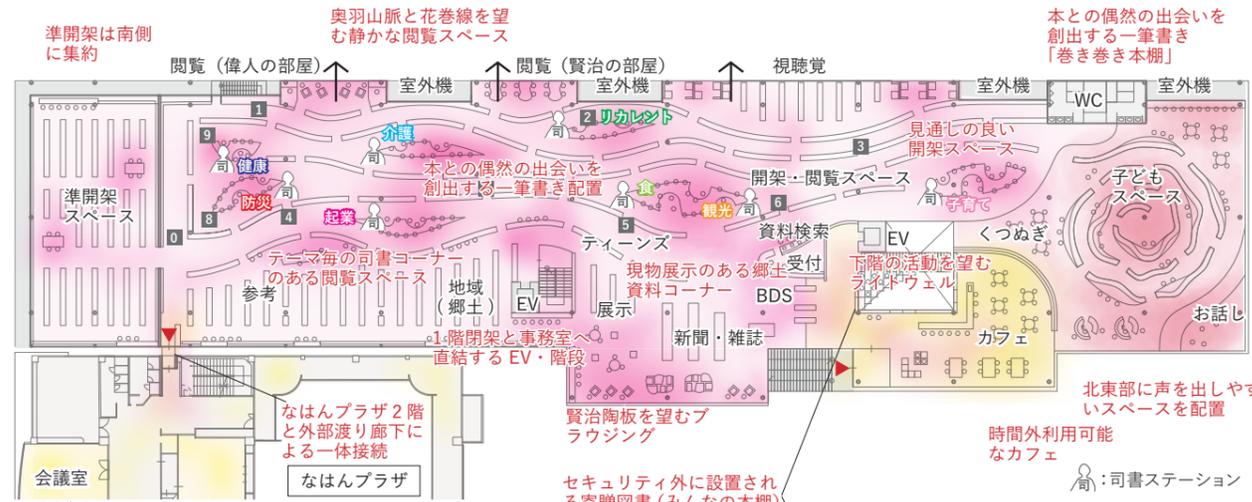


図 12-25) 2階平面のイメージ

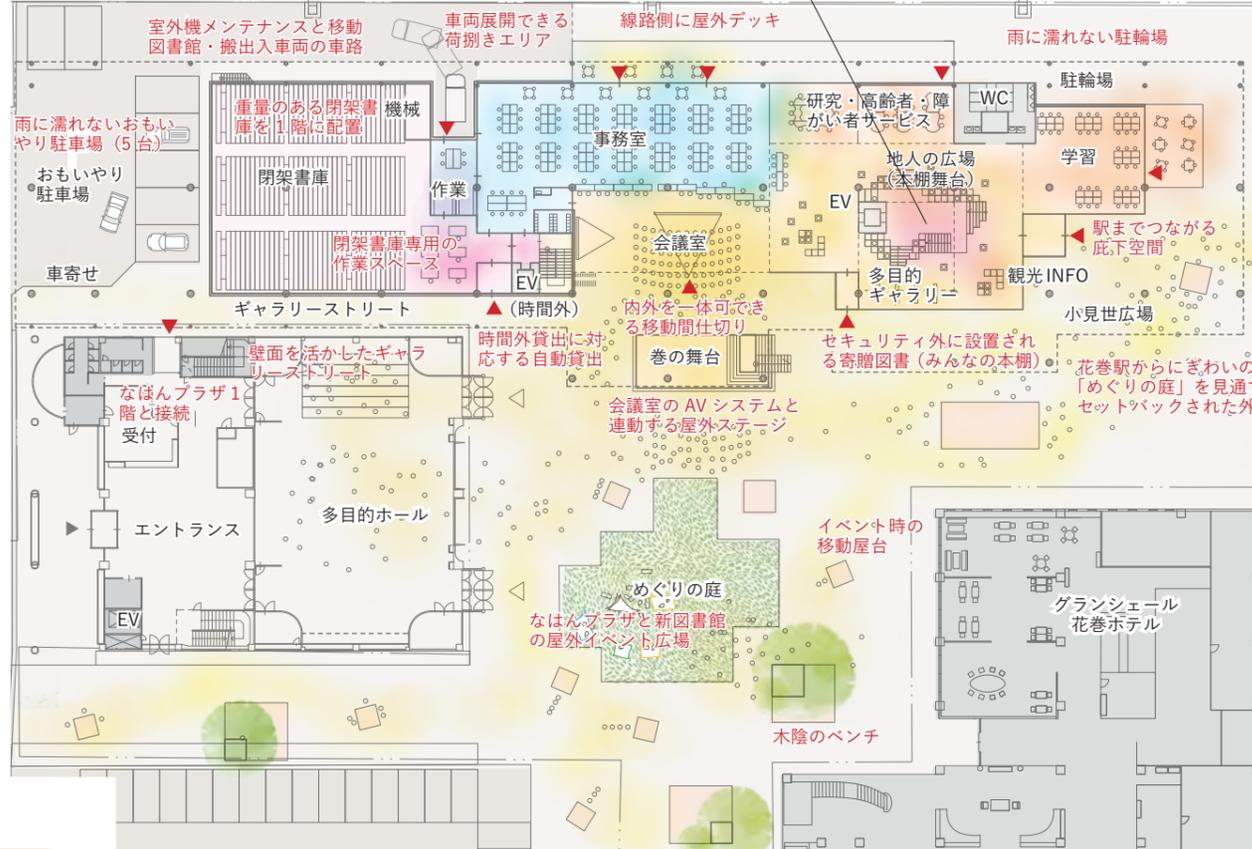


図 12-26) 1階平面のイメージ

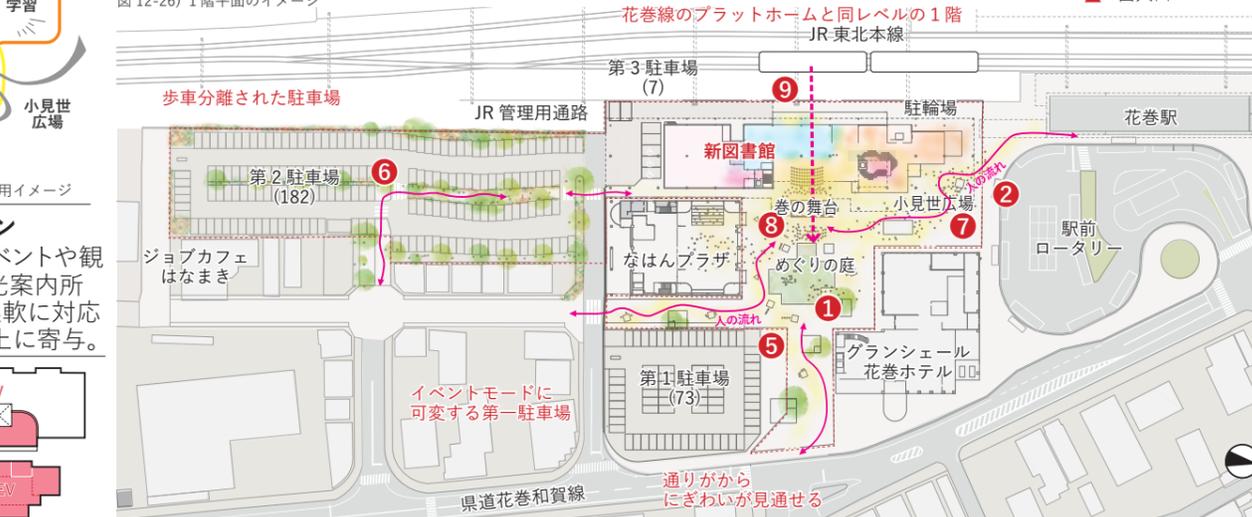


図 12-27) 配置計画のイメージ

イ 公共建築としての持続可能性

ZEB 取得 弊社 ZEB 取得実績有

外壁開口率を抑え、かつ、高断熱屋根により実現。西 25% 東 40%

まちの文化拠点化

市民活動の介入代のあるおおらかな間取りにより、市民の多様な活動を包括。

将来の少人数運営への対応

1階は活動単位空間毎のセキュリティ区分とし、部分的機能変更も可能な計画。

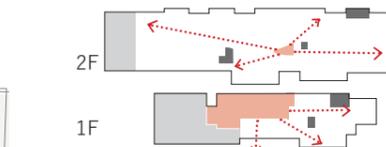


図 12-28) 外壁開口率

低コスト運営施設

見通しの良い開架スペース。業務エリアの集約配置。(左図 - 図 12-32) 省エネの高断熱・高効率設備計画。(右図 - 図 12-33)



図 12-32) 隅々まで目の届く平面計画

機能に応じた各階構造の最適化

東西方向フレームの内、1階はラーメン構造、2階は西側の柱で水平力を負担し、むくりのある梁なしの屋根スラブにより、大空間構造を実現。

図 12-33) 環境負荷低減と敷地の有効活用を踏まえた断面計画の考え方

ウ 敷地の活用

新しい駅前としての顔

- 「駅前広場」、軒下の「小見世広場」と芝生「めぐりの庭」3つの広場を有機的につなぎ、市民の活動を促進させます。
- 駅前側に常に人の気配が見えるように計画。(子どものエリアを北側に計画) 駅側にも広場側にも玄関を設け、裏を作らず、人を迎え入れる計画。
- ブラウジングコーナーからも、なはんプラザの陶板や広場が見える。

有機的な連携

- なはんプラザにも繋がる立体的回遊動線
- 3つの隣接駐車場と「めぐりの庭」の一体的な大規模イベントに対応する外構計画。
- 一般駐車場は第1・2駐車場を合理化し、十分な駐車台数を確保。(合計 262 台)

開かれた都市広場

- 賑わいを発信する全天候型の「小見世広場」を花巻駅側に計画。
- ステージと屋内大会議室を広場側に隣接配置。屋内外の一体的なイベント利用に対応。
- 電車から「めぐりの庭」の賑わいを感じる開放的な1階計画。

地域風向に配慮した軒下出入口計画

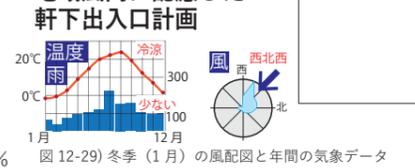


図 12-29) 冬季(1月)の風向図と年間の気象データ

西側からの冬季季節風を防ぐ配置計画により、使いやすい外部底空間を実現。



図 12-30) 一体利用時



図 12-31) 分割利用時

低コスト運営施設 見通しの良い開架スペース。業務エリアの集約配置。(左図 - 図 12-32) 省エネの高断熱・高効率設備計画。(右図 - 図 12-33)

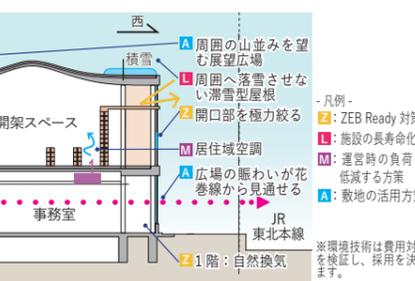


図 12-34) 各階最適化された構造計画

空間に広がりをもたらす梁なしむくり屋根

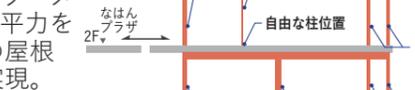


図 12-35) 屋上平面のイメージ

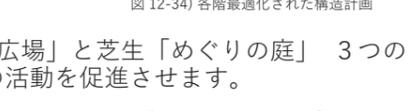


図 12-36) 宮沢賢治の陶板を眺める閲覧コーナー

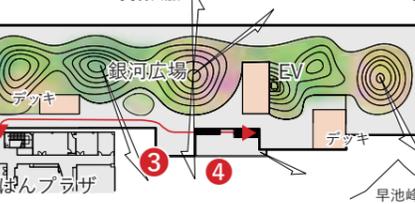


図 12-37) 花巻線を望む広場に面するステージと会議室



図 12-38) 花巻線を望む広場に面するステージと会議室